

Net Work Report FORWARD

ネットワークレポート
フォワード 第36号
for working together

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか11F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

<http://www.workwith.or.jp/>
E-mail: o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「2010 障がい者雇用フォーラム in 大阪」に寄せて

代表理事 江口 敬一

ネットワーク最大のイベント「障がい者雇用フォーラム in 大阪」が今年も9月29日(水)にドーンセンターで開催されます。今回ご講演をお願いいたしましたダイキン工業(株)の井上礼之会長を去る7月5日に應武理事と一緒にご訪問いたしました。これまで幾度かご講演をお聞きしたことはございますが、間近にお目に掛かりお話させていただくのは初めてで緊張しておりましたが、会長の「いやいやお待たせしてすみません」との気さくなお一言で気持ちがとても楽になりました。特に印象に残りましたのは、小職のような若輩者に対して「まだまだ勉強不足で教えてください。」「お役に立てるかどうかわかりませんが、勉強します。」と謙遜され、ご提案しました演題「ダイキン工業(株)の経営理念とその実践」についても「お任せいたします」という相手をおもんばかりのお人柄の一方、プロフィールの中で「13期連続増益の達成・・・」の文案については「14期連続です」とはっきりとした口調でご指摘を受け、僣越でございませが従業員4万人を率いておられる企業トップの気迫を感じました。また会長の(株)ダイキンサンライズ摂津 應武社長や後藤工場長への信頼の厚さや同席の中川部長との会話のやり取りを見聞きさせていただき組織人を越えた温かみのある人間関係をお伺い知ることができ、とても素晴らしい一時を過ごす事ができました。短い時間ではございましたが、「人

を基軸に置いた経営」及び「率の経営」の一端と小職をエレベーターの前までお見送りいただき、深々と一礼されたお姿に「ホスピタリティ(おもてなしの心)」の実践を実



感した次第です。会長は(株)ダイキンサンライズ摂津設立当初から、「障がいのある人を補助する、援助するという意識での経営は絶対に長続きしません。社会にも受け入れられません。障がいのある人たち自らの努力とお互い同士の協力で経済的に自立する会社にしなければなりません。彼ら一人ひとりが、今より少し高い目標にチャレンジし続けることが大事であり、歯を食いしばって仕事をやり遂げて利益が上がることを実感した時初めて、やりがい・自信・誇りが生まれるのだと思います。ダイキンサンライズ摂津10周年記念式典で障がい者の雇用を50人から100人にと挨拶しましたが、昨年新社屋も竣工し、現在目標達成に向け雇用を拡大しています。」という企業経営者らしい障がい者雇用と企業経営に対する明確なお考えをお持ちです。9月のご講演が楽しみです。ドーンセンターを盛況でお迎えしたいものです。

第10回通常総会開催

行政や市民活動等と連携し障害者雇用の拡大を

広報事業部 永野 有紀

5月22日（土）、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークは(株)ダイキンサンライズ摂津で第10回通常総会を開催し、平成21年度の事業・収支報告と新しい年度の活動方針などについて共有しました。また6月から事務局に、寺岡ひとみさんを新しく加え、今後も積極的に取り組んでいく事を確認し合いました。

来賓を代表し、3名の方に祝辞・メッセージをいただきました。

○大阪府商工労働部 野本 康憲 雇用推進室長

（大阪府知事メッセージを代読）

本年4月に大阪府障害者の雇用の促進等と就労の支援に関する条例が施行されました。

また、府民や企業の皆様から寄付を募り、重度障害者の職場定着に取り組む事業主をサポートする大阪ハートフル基金の設置や障害者を多数雇用する中小企業等の法人事業税を軽減するハートフル税条例を創設するなど、障害者雇用に取り組む事業主をさまざまな施策で支援してまいります。障害者雇用NO1をめざして取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



野本室長

○大阪労働局 職業安定部 安永 潔 職業対策課長

（大阪労働局長メッセージを代読）

大阪労働局では、雇用率の達成市場につきまして達成企業割合50%を目指して、局長以下、局幹部が府内の大手企業を中心に指導に回っていますし、ハローワークにおきまして



安永課長



も、各省は独自の目標をかかげ、指導に努めているところです。

また、障害者の職業紹介につきましては、今年度も関係機関との連携を密にし、障害者の方一人ひとりに応じた、きめ細かな職業相談、職業紹介、並びに職場適応指導を行い、一人でも多くの方が就職に結びつき、職場に定着できるよう取り組んでまいりたいと思います。

○連合大阪 高原 義宏 副事務局長 祝辞

連合・連合大阪の政策制度で、障害者雇用の取り組みについて、国、各地方自治体に要請してきたところです。昨年、民主党が政権をとり、立ち位置が変わったことにより、連合はトップ懇談会などで協議という非常に身近な形で、障害者雇用についても意見交換でき、大きく前進するのではないかと期待しております。連合大阪



高原副事務局長



としても、大阪雇用対策会議の中で前進をはかっていきたいと考えております。

一労働団体、一行政だけではできないことを、この大阪雇用対策会議で協議し実現していきたい、また支援ネットワークを通じて、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

◆新しい役員体制

代表理事	江口 敬一
副代表理事	湯川 隆司
副代表理事	高原 義宏 (新任)
理事	竹本 (乾) 伊津子
理事	應武 善郎
理事	久保 克己
理事	秦 (酒井) 京子
理事	嶋田 彰
理事	田中 純幸
理事	森 悟子
理事	矢野 孝
理事	伊集院 貴子 (新任)
理事	永野 有紀 (新任)
監事	時枝 民生
監事	安蔵 崇史

◆新年度の各事業部の取り組み

○インターンシップ事業部

インターンシップ事業部は、障害がある方への事業所における体験実習（障がい者の態様に応じた多様な委託訓練）を通じ、地域の支援機関、支援者、家族と連携した一体的な個別就業生活支援マネジメントを企画・実施することにより、当ネットワークに相談される障害がある方への社会参加を応援する。

〔主な事業〕

- (1) 障がい者委託訓練インターンシップ事業
- (2) お・こ・しカフェ
- (3) 障害のある生徒の就労支援のあり方調査研究
- (4) 公務労働内雇用創出事業

○地域ネット事業部

＜支援ネット構築事業＞

今年度は、(仮称)大阪府障害者就労支援協議会の必要性を訴え続け、協議会設立を実現したい。昨年度の厚生労働省障害者自立支援調査研究プロジェクト「自立支援協議会における就労支援のあり方について」の研究調査事業の中で、専門委員の方々の賛同を得られたので、府内の障害者就業・生活支援センター関係者、就労移行支援事業者、相談支援事業者、雇用、福祉、

教育、医療等の代表者会議を企画・準備・実現したいと思う。実務担当者間においては、就業・生活支援にかかる情報交換、経験交流、助言、研修等を行う。

〔主な事業〕

- (1) 大阪府障害者就労支援協議会 (仮称) 設立準備事業
- (2) 障害者就業・生活支援センター情報交換事業

＜企業ネット構築事業＞

企業の障害者雇用の促進と継続を図るため、情報提供やコンサルティング体制を充実させ、企業相互支援ネットワーク体制を構築します。障害者雇用企業における、障害者の職場定着や雇用管理上の問題、就労・生活支援での問題解決を図るために、企業が主体となって相互の情報交換をし、支援し合う事ができるネットワークづくりに取り組みます。また、OSK企業ネットが障害のある人が地域で働き、そして充実した生活を営める環境づくりの一翼を担う確固とした社会資源となるように地域の労働組合も含めた関係諸機関等とも連携をしながら、大阪府下の各地域にネットワークの輪をさらに量的・質的に広げていきます。

〔主な事業〕

- (1) ハートフル事業所ネットワーク事業 / 障害者雇用企業情報交換会議
- (2) ハートフル事業所ネットワーク事業 / OSK 企業ネット会員・企業ネット事業部拡大運営会議
- (3) 障がい者多数雇用事業所サポート事業 企業相談

○ジョブコーチ養成事業部

障害のある人の一般就労に対する支援のニーズが高まり、地域において新しい就労支援の枠組みができるなか、福祉サイドの第1号職場適応援助者（ジョブ・メイト）や企業サイドの第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター）は本人と企業の双方のつなぐ重要な役割を担っており、今後ますますジョブコーチに対するニーズは高まっていくものと思われる。増大するニーズに応えるため、ジョブコーチ養成研修の定員の増員を図るとともに、過去4年間に300名を超える修了者がいる実績を踏まえ、修了者のフォローアップやネットワークづくり、情報発信にも力を注いでいく。

〔主な事業〕

- (1) 職場適応援助者養成研修の開催 (大阪版) / (地方版)
- (2) ジョブ・メイト / ジョブ・コンダクター養成事業 (アドバンスト研修)

○広報事業部

広報事業部は、就業しようとする障害のある人とそれを取り巻く事業主、支援者や家族をはじめとする関係者、そして障害のある人の就労に関心のある人に対して広く情報を提供する。

〔主な事業〕

- (1) 障害者雇用フォーラム in 大阪
- (2) 障害者雇用推進「障害のある人の就労をひろげる市民講座」
- (3) 広報啓発事業 機関誌「FORWARD」の発行
- (4) 広報啓発事業 「ホームページ発信」

○顕彰事業部

顕彰事業部は、障害のある人の雇用、働く場面の創出、働く気持の尊重、働く可能性の開発

などに貢献する企業を探し、評価し、さらに広げていくことを目標として、以下の事業を実施する。

今年度は地方公共団体として初めて障害者雇用・障害者就労支援に特化した条例が初めて施行され、労働、福祉、教育、医療等が一体となって、この条例を推進し、その成果を顕彰事業表彰式・雇用フォーラムで発表する。大阪府知事賞が最大3対象に拡大され、一般雇用、重度多数雇用事業所、教育関係実習受入れ事業所等を想定して、選考される予定である。顕彰事業部としては、それらに合わせた形で事業を進めていきたいと考えている。また、NPOとしては、ランプのともしび企業活動顕彰事業の辺をさらに拡大していきたい。

〔主な事業〕

- (1) 大阪府ハートフル企業顕彰事業 / ランプのともしび企業活動顕彰事業

第10回通常総会記念講演報告

障害者支援ネットワーク構築の取り組みと課題

三田 優子さん（大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授）

広報事業部 永野 有紀

5月22日、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークの第10回通常総会が終了した後、記念講演が行われた。

講師は、大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科准教授の三田優子さん。堺市障害者自立支援協議会会長を兼任されており、障害者の就労を基軸とした地域支援を行っている堺市障害者自立支援協議会について以下のように講演された。

堺市障害者自立支援協議会について

堺市障害者自立支援協議会は、平成19年3月に設置され、「障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、さまざまな機関が幅広く参加し、地域での相談に関するシステムづくりについて、中核的な役割を果たすこと」を目的としています。

この協議会の中に、堺市の7つの区の地域性を含めることも重要と考え、区協議会も参画し取り組みを行っています。

ゼロからのスタート

大阪府下で、自立支援協議会があまりなかつ



記念講演

た為、参考にするとどころがなく、全く分からないままこの協議会をスタートしました。

「どう取り組んでいくか?!」と考えたとき、生活支援されている方の立場から言えば、就労との関係、医療との関係、企業との関係などネットワークはなくてはならない。また、就労している方、企業の立場の方も高齢化を迎え、医療的なケアが必要になると医療との関係も大切になります。“それぞれが色々な人とつながることが必要だ”という状況にあることは間違いない。みんなが集まり情報を共有し、色々なことについてディスカッションできる拠点を作らないといけないということを私たちは重要だと捉えました。

各区で就労のネットワークを進めたいということで、まず“地域を知る”ことから始めようと、使えそうな資源の収集を行いました。「福祉のしおりにはのっていないが、使えるのがあるかもしれない」と調べていくと、就労まではいかなくても、使えそうな資源が各区で色々あることに気付きました。

また、地域の方たちも障害者雇用について「何か出来ることはないか」など話が出ていて、それをどこに持っていったらいいかわからずに行った、ということも知りました。お互い接点を探していなかったし、もっともっと地域に入り込んで、その中にあるもっとおもしろいものかどうか、埋もれている人材やネットワークの前提になるようなものを探すということをしていなかったのではないかと思います。

私達はこの協議会で色々な課題があがった事を、具体的な成果にする為に、取り組みを進めています。

障害当事者部会について

区・市の協議会に障害者の参画は必要となっていました。なかなかむずかしいのではというのもあったように思います。しかし、「当事者の意見をたくさん反映させたい、そこが全ての大本ではないか」ということで、堺市障害者自立支援協議会は一年経って、障害当事者部会を設置しました。

全国の様子をみると、知的障害者部会、身体障害者部会、精神障害者部会と3つに分かれています。しかし、「障害のある人も他の障害を知らないのでは?!」ということも含めてこの障害当事者部会は、3障害当事者のみで取り組んでいます。このことは堺市障害者自立支援協議会の特徴でもあります。

最初の会議で「自己紹介と困っていることは何かを言いましょう」と始まりました。しかし、「困っていること」で初めから「働く」ということが話題になり、それぞれの思いから激しい議論になりました。精神障害のある人は、「なぜ、そんなに働くということにこだわるんだ」と意見し、身体障害のある人は、就労・雇用の場を広げてほしいという運動をしてきた背景がありました。その為、働くことについてお互い激しく意見し合いましたが、そこにいた知的障害のある人がしびれをきらして、「なぜケンカしているのか分からない。説明してからケンカしてください」という発言に、お互いハッと、そ

れぞれの現状と実態をお互い知りながら、“働くとは何か、また地域で支援を受けるとは何かなどを話す場所はここなんだ”と気づき、あつという間に思いが1つになりました。

また、この部会では色々な意見が出ます。そのひとつに、「私たちが利用できるもので、分かりやすい情報というのがあったためしがない」という意見がありました。実際、福祉のしおりはあまり利用されていません。私達は、自分が障害のある状態になった時、“これを利用すると元気になれるのかも!”と思うようなものを作らないといけない、また、頼りにされる支援者は何なんだろうと考えさせられることがあります。

障害当事者部会では、フォーラムも開催しています。1年目は、「市民を対象にしたい」というのが要望でした。「障害というのが非常に幅広いということをあまりにも知らない。また、“障害”という冠をつけないといけないという発想を変えないと、私たちの思いは届かない」「障害があっても無くても、地域で暮らしに困っている人は山のようにいる。仕事で困っている人、住まいで悩んでいる人は、どこにでもいる。そういう人たちみんなが住みやすくなれば、私たちも住みやすくなる」という発想でフォーラムを開催しました。多くの市民に参加していただいたので、よかったですと思います。

今後に向けて

この障害当事者部会で色々教えていただきました。

はたらくことで自分がワンランク上にいくというふうに身体障害のある人たちは思っ一生懸命頑張っています。また精神障害のある人たちは、自分のうつ経験が役に立つだろうと薄々感じています。はたらくって何だろうと模索している中で、働くということが楽しかったり、誰かの役に立つ喜びだったりあるいは自己実現になるということを支援者だろうが、障害があろうがなかろうが、一緒に考えていくことがとても重要だと思います。

堺市全体を見据えて、何かに取り組んで行くことが重要で、そのために、色々なネットワークを作り障害のある人に全然関心がない人たちをどう巻き込むか、それにはどんな作戦がいいのかという作戦を立てる基地として、この協議会をフルに回転し、活かしながら取り組んでいかなければいけません。

インターンシップ実施状況

学生向けインターンシップ企画について

インターンシップ事業部 伊集院 貴子

今年で3回目になる高校、専修学校等の学生を対象としたインターンシップ企画についてご報告いたします。3回目ともなると本企画も認知度が高くなったようで、多くの方に参加いただきました。

1. インターンシップ企業見学会

障害のある人が生き生きと働いている様子を見学し、働くイメージを持ってもらう。

日時：7月21日(水)午前9時30分～午前11時30分

対象：生徒・保護者・教員

場所：(株)JR西日本あいウィル
取締役統括部長 奥野 誠氏
会社概要の説明、DVD視聴／企業見学／参加者からの質疑応答

参加者：66名

2. インターンシップ希望者面談

障害のある人が働いている企業での就業体験を希望する人に対し、希望者の面談を行う。

日時：7月21日(水)午後2時～午後5時

対象：生徒、保護者または教員

場所：エル・おおさか 5階 研修室1／研修室3

参加者：希望者29名

3. インターンシップ企画／保護者向け講習会

障害のある生徒の就職を考えるときに保護者として学校としてどのような準備をし、協力をしていけばよいのかについてシンポジウム形式で討議しました。

日時：7月22日(木)午後2時～午後4時

対象：保護者・教員・生徒

場所：エル・おおさか 5階 研修室2



テーマ：「在学中の今、それぞれが取り組むべきこと」

シンポジスト

宮武 義弘氏 (大阪市立思斉特別支援学校 進路指導主事)

清水 百合枝氏 (清水 広之さん保護者)

清水 広之氏 (日本ケンタッキーフライドチキン(株)長田中央大通り店社員)

石川 純也氏 (日本ケンタッキーフライドチキン(株)長田中央大通り店店長)

中村 鈴代氏 (大阪市障害者就業・生活支援センター北部地域就業支援センター就業支援ワーカー)

コーディネーター

乾 伊津子氏 (大阪市職業リハビリテーションセンター 所長)

参加者：50名

今年度は新しく在校生の保護者向けの企画を取り入れました。実際、受け入れをして下さっている企業の店長さんが就職をした清水君に質問をするような感じで話を引き出してくださり、業務でのちょっとしたエピソードを交えながらのお話だったので生き生きと働いている現場の様子がよくわかりました。店長さんからは、体調管理等、家庭で支援してもらいたいことがありますとのコメントがあり、保護者の皆様も家族の協力の重要性を実感して帰られたのではないのでしょうか？

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H22.6.30)>

I. インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済み件数	28人
修了数	13人
中退数	5人
(うち雇用移行 ための中退数	(0人)
実施中数	10人
IS利用登録人数合計	43人

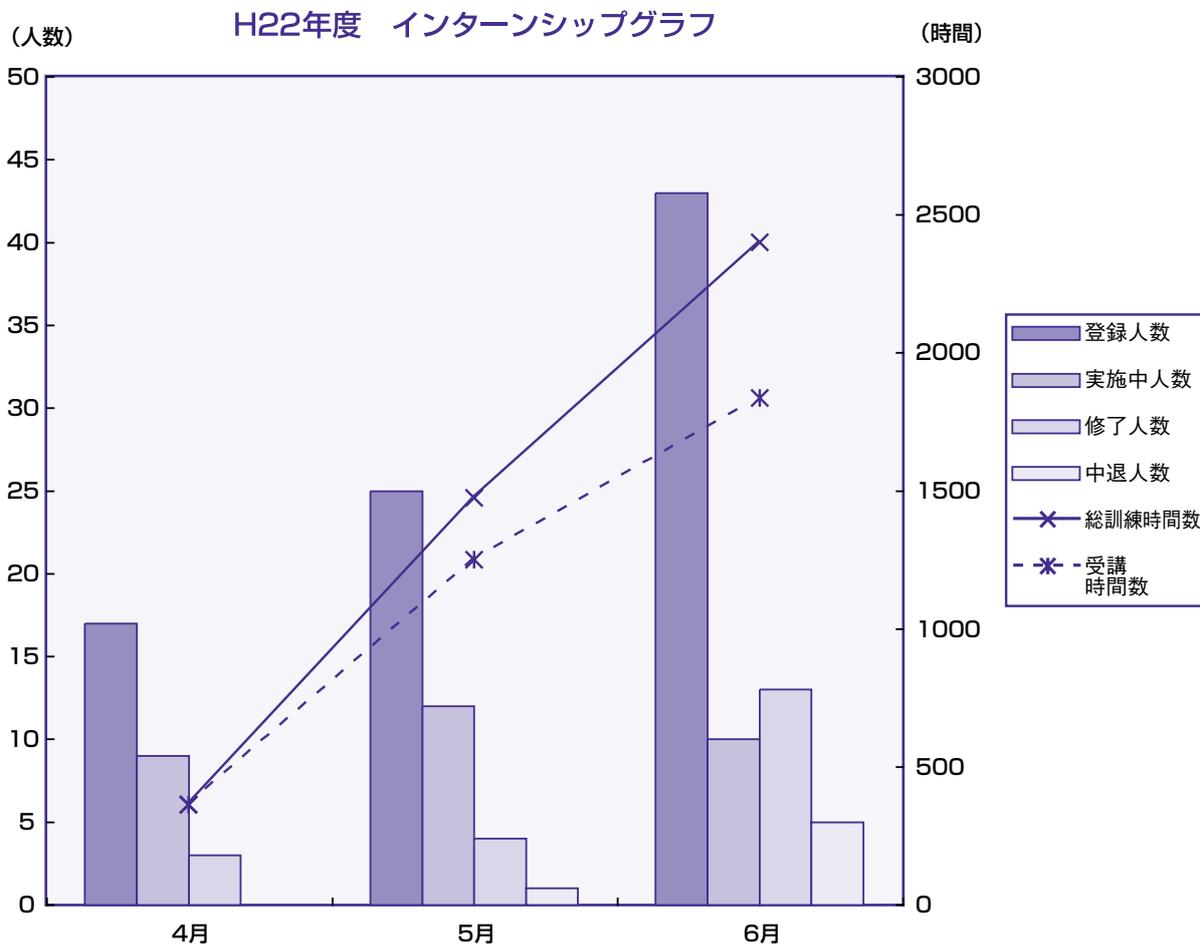
II. インターンシップ相談者状況

<全体>

		身体				小計	知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部					
実施	修了者数	0	1	0	0	1	7	5	0	13
	中退者数	0	0	0	0	0	3	2	0	5
	実施中数	0	1	0	0	1	4	5	0	10
小計		0	2	0	0	2	14	12	0	28
登録取消		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	2	0	0	2	14	12	0	28

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	0	0	1	0	1
障害種別就職率	0%	0%	8%	0%	4%



「2010 障がい者雇用フォーラム in 大阪」にご参加ください

毎年9月の障がい者雇用支援月間にあわせて開催している「障がい者雇用フォーラム in 大阪」を本年も下記のように開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

- 日 時：2010年9月29日（水） 13:00～16:30（12:30 受付開始）
- 場 所：ドーンセンター 7F ホール
 大阪市中央区大手前 1-3-49 地下鉄谷町線「天満橋駅」徒歩5分
- 主 催：連合大阪、NPO 法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
- 後 援：大阪府、（社）関西経済連合会
- 内 容：（1）主催者あいさつ
 （2）大阪府ハートフル企業顕彰制度授賞式および会社紹介
 （3）講演『「基軸は人」を貫いて～ダイキン工業(株)の経営理念とその実践～』
 講師：井上礼之さん（ダイキン工業(株) 代表取締役会長兼CEO）

参加費：無料

※事前申込制：締切9月17日（金）

井上 礼之氏

ダイキン工業(株) 代表取締役会長兼CEO



■ 交通

- ・JR 東西線「大阪城北詰」駅②出口から西へ550m
- ・京阪・地下鉄「天満橋」駅①出口から東へ350m

■ 駐車場（立体駐車場 92台 普通車のみ）

- ・午前 9:15～午後 9:45
- ・最初の1時間まで…¥400
- ・超過30分ごとに…¥200

お問い合わせ：特定非営利活動法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク

TEL：(06) 6949-0350 / E-Mail：o-isc@onyx.dti.ne.jp